



2019年慰安旅行に行ってきました!!

北海道組



登別、洞爺湖など世界ジオパークに認定されている場所で目で体でその地形などを感じてきました。天候も良く、楽しく、暑い社内研修となりました。 柳原

伊豆組



初めての慰安旅行に参加させていただきました！私自身伊豆は初めての体験でしたが、城ヶ崎海岸、韮山反射炉、近くに海があったりととてもいい場所だと思いました。 久野

今年も開催のイベントです

森 直樹 (代表取締役社長)



「PVC アワード 2019」の公募が開始されました。2年ぶりの開催ですが、今回はタイトルから「デザイン」が省かれ、現在発売されている商品、または発売予定の商品のみの応募受付となります。昨今のプラスチック全般についての世間の印象は必ずしも良いものではありません。しかしながらプラスチックの無い生活も我々にとってあり得ないものではないでしょうか。プラスチックの持つメリットは使い方や処理方法を誤ればデメリットとして受け止められる事もあります。PVC アワード 2019より、PVC、そしてプラスチックの持つ良さを広く伝えていくきっかけの一つとなる事を願っております。そして今回も森松従業員一同で参加し、大賞受賞目指して頑張ります！また、今年で27回を迎える展示会「元気の出る森松展」ですが9月12-14日で弊社5階にて開催致します。テーマは「AttacK! ~プラスチックの新しい時代が始まる~」です。今年の新商品情報はもちろんのこと、13日14時からの講演会では海洋プラスチックに関するトピックスもご紹介させていただきます。是非ともこの三日間にもご期待ください。皆様の来場をお待ちしております！

ゴジラ

吉岡 孝記 (営業部)



ゴジラと言っても読売ジャイアンツの松井秀喜さんではありません。怪獣のゴジラのことですが、先日、キング・オブ・モンスターと言う映画がやっており非常に懐かしく思い、久しぶりに映画を見に行きました。最近ある年齢を過ぎて割引があり、ありがたいことに、1100円で観ることができます。ゴジラの映画を最初に観たのは小学生の低学年だと記憶していますが、当時は、ゴジラは悪い怪獣をやっつける正義の味方でした。また、着ぐるみを着てコミカルな動きをして楽しませてもらいました。毎年ゴジラの映画を見るのが楽しみでした。ゴジラの歴史を少し調べて見ました。1954年に第一作が公開され、特殊映画製作を熱望していたスタッフが、当時社会問題となっていたビキニ環礁の核実験の着想を得て製作した、第1作水爆大怪獣映画「ゴジラ」が公開される。身長50mの怪獣ゴジラは人間にとっての恐怖の対象であると同時に煽り文句などで「核の落し子」「人間が生み出した恐怖の象徴」として描かれた。また、核兵器という人間が生み出したものによって現れた怪獣が、人間の手で葬られるという人間の身勝手さを表現した作品になりました。核が生み出した怪獣が町を壊し焼き尽くす。原子力もクリーンで安い電気を供給でき便利な生活ができますが、核、放射能の怖さを一番よく知っている唯一の被爆国が原子力に依存しているなんておかしな話だし、東日本大震災も収束していないのに原子力発電所を再稼働させるなんて、考えられない。放射能が大好きなゴジラの着ぐるみを着た政治家でもいるのでしょうか。残念。

タイムスリップ

安井 浩二 (企画営業部)



北名古屋市にある「昭和日常博物館」(正式名称は北名古屋市歴史民俗資料館)ってご存知ですか?昭和の暮らしの品々を当たり前のように使っていたものを常設展示してある博物館です。見学してきましたが意外とスゴイ!です。3Fフロアが展示場ですが、半分以上のスペースに昭和の街並みが再現されており、駄菓子屋、床屋、履物屋などあり、まるでテーマパークのようで『ALWAYS 三丁目の夕日』の世界へタイムスリップできます。他、展示品は街並みとは別にきれいにジャンル別に電化製品から日用品雑貨など多数展示してあります。食品やお菓子のパッケージなどもあり、よく集められたものだと感心します。どれも見るたびに懐かしさを感じますが、しかし、今ではモノがあふれており、使い捨ての時代。あの頃はモノを大事に扱っていたことも思い出され、そういう気持ちを忘れてはいけないことも思いました。また、この施設を利用して北名古屋市は「地域回想法」として介護予防、認知症予防や地域づくりを目的に「思い出ふれあい事業」として実施しているそうです。ちなみに「回想法」とは、懐かしい生活道具などを用いて、かつて自分が体験したことを語り合い、過去に思いをめぐらすことにより、生き生きとした自分を取り戻そうとするものだそうです。機会をみて両親を連れて行ってみようかと思えます。さて、もう一つB1Fに設けられた自動車展示場があります。1960年代~1970年代の自動車クラウン、コロナ、パブリカなど。バイクではスーパーカブやホンダドリームなど多数展示してあります。車好きであればここだけでも楽しめると思います。この「昭和日常博物館」は入場無料です。一見の価値があると思いますので、興味のある方は是非!



鳥羽水族館

西垣 浩司（製造部）



先月、妻と息子とで久しぶりに近鉄で三重県鳥羽市の JR・近鉄鳥羽駅から歩いて 10 分程のところにある「鳥羽水族館」に出かけました。美しい姿の魚や、心癒されるかわいい生きもの、そしてユニークなパフォーマンスを繰り広げる動物たちなど、ここでしか味わえないワクワク体験を紹介していました。一般的な水族館と違い、館内は観覧する順序のない自由通路になっているので、好きなところを好きなだけ楽しむことができます。美しいサンゴ礁が広がる熱帯の海を再現した水槽では、世界最大級の花園のように美しい人工サンゴ礁を堪能することができます。1 日に 4 回開催されるアシカショーでは、アシカが飼育員さんの指揮に合わせて童謡の「桃太郎」や「キラキラ星」をオルガンで弾いたり、キューピー人形を口先に乗せてスタジアムの岩を上ったり、多彩なパフォーマンスを披露してダンスを踊るアシカの立ち姿が、これまたとってもカッコよく！ショーに目は釘付けです。人魚伝説のモデルとして知られるジュゴンも、生息数が減少したために国際保護動物に指定されているそうで、日本では、ここ鳥羽水族館でしか会うことができないそうで、つぶらな瞳で優しい顔をして、性質はおとなしく、とてもデリケートなんですって。大きな体でゆったりと泳ぐ姿に癒されました。皆様も機会があればいかがでしょうか。



知多四国霊場巡り

稲葉 善貴（製造部）



以前から健康のためにウォーキングを始めようと考えていたのですが、せっかく歩くのだったら何か楽しみがあったほうが長続きするだろうと思い知多半島を一周する知多四国霊場巡りに挑戦してみました。知多四国霊場とは、文化六年（1809 年）に亮山阿闍梨というお坊さんが弘法大師（空海）から「二人の行者を遣わすので、ともに知多半島に霊場を開き衆生済度せよ」と夢のお告げをうけ本四国霊場を巡礼して霊場開発の造詣を深めながら、岡戸半蔵と武田安兵衛という二人の行者を得て、知多半島に新しい四国霊場を結ぶことができるよう一ヶ寺ずつ理解を求めて歩き文政七年（1824 年）三月、全札所寺院へ弘法大師像を納め終え八十八ヶ寺の札所を制定しました。亮山阿闍梨の発願から十六年の歳月がかかっています。知多半島東部の付け根から八十八ヶ寺を右回りにつなぐ巡礼の道が開かれ全行程およそ五十里（約二〇〇キロメートル）の道のりで、徒歩ですべての札所をめぐるのに六泊七日を要したようです。六月二日の午前六時に第一番の曹源寺で納め札と奉納経（御朱印帳）を購入してお参りを済ませて出発し午前九時ごろに第六番の常福寺に到着しました。片道約十キロの道のりでした。普段の運動不足がたたってこのときかなり疲れていましたが、ここから出発地点の曹源寺まで戻らないといけませんでした、帰りの道のりで何度か「嫁さんに迎えに来てもらおうかな」などと、考えながらもなんとか自力で曹源寺にたどり着きました。約二十キロのみちのりでした。実は出発前の計画では、巡礼中に「その土地の美味しいものでも食べたいな」という事を考え楽しみにしていたのですが、早朝から出発したためコンビニくらいしか営業してなく、美味しそうなラーメン屋さんなどを横目に残念な気持ちで歩き続けました。今回はこの楽しみを味わうことができませんでしたが、この先には師崎、日間賀島、篠島などもあるので今から楽しみにしています。次回は東浦辺りを往復約十五キロの道のりになります。



森松 プラ製甲冑拡販

戦国武将 プラーム イベント需要狙う



プラスチック製だが、本物の鉄製甲冑を彷彿とさせる

プラスチック製だが、本物の鉄製甲冑を彷彿とさせる。価格は1体15万円程度(税別)で、赤、青、ピンクなどの色を用意。織田信長や徳川家

プラスチック製品の製造・販売を手掛ける森松(本社名古屋市長段後通、森直樹社長、電話052・612・8831)は、プラスチック製の甲冑(かっちゅう)の販売に乗り出した。軽量で水に強いのが特徴で、デザイン性も高く本物の鉄製甲冑とそっくりだ。戦国武将プラームを背景にイベント需要を掘り起こすほか、個人需要の取り込みも狙う。(倉科信也)

同社は6年ほど前、試行的にプラスチック製の甲冑を開発。従業員が着用して中村区の区民まつりや、愛知県栗原町の於大まつりに参加してきた。イベントで好評だった上、「日本の名城や戦国武将のプラームが続く中、今後も全国のイベントで武将の登場機会が多くなる」と見(森社長)と見て事業化を決めた。



森直樹社長



2019年(令和元年) 6月6日 木曜日

発行所 中部経済新聞社 千450-8561 名古屋市中村区 名駅4-4-10
編集局 052(561)5212
読者部 052(561)5216
広告部 052(561)5213
事業部 052(561)5675
総務部 052(561)5215
東京支社 03(3572)3601
©中部経済新聞社2019
購読のお申し込み ☎0120-605-123



森松プラスチック甲冑の記事が 中部経済新聞に掲載されました!!



ライブ

阿部 かおる (特販部)



先日、小田和正のライブに行ってきました。すごくすごくよかったです!! 年齢層は...やはり同世代が多く、中には親の影響か小学生もいました。普通の舞台ではなく、お客さんの近くに行けるよう、会場全体をぐるっと歩けるような設営になっていて、歌いながら歩いたり走ったりしてくれたのですぐ近くで見ることができました。歌は抜群に上手く、テレビやラジオで聴く歌声とまったく同じ。71歳とは思えないほどパワフルで、ピアノも聴き惚れてしまいました。昔よく聴いた「愛を止めないで」「YES-YES-YES」や、名曲「ラブストーリーは突然に」も生で聴くことができ感動しました。「さよなら」はアンコールで唄ってくれました。三重県四日市ドームが会場でしたが、交通事情が悪く、競輪場が隣接されていることもあり、駐車場は満車。臨時駐車場は会場からかなり遠い場所で、歩いて20分はかかりました。それでも文句も出ずまた行きたいと思うのは、あんな素敵なライブをまた観たいという想いなのかな。昨年行った松任谷由実のライブもサーカスのように演出がすごく、また行きたいと思わせてくれるライブ・アーティストでした。



こんな感じでライブに行くようになったきっかけは、知り合いが自分たちが若かった頃に見ていた人たちがもう60~70代になってきたので、今のうちに生で聴いておきたいということを話していて共感したからです。小田和正も松任谷由実も高橋真梨子も、特別ファンではなかったけど、テレビではわからない、ライブで見せてくれた素の顔を見て好きになりました。最近では、知り合いのアマチュアバンドのライブにもよく行きます。プロのバンドとは違うけど、親近感があり、飛び入りで唄ったり、しみり聴かせてもらったり...。いつもとても楽しい時間を過ごせます。今までは野球ばかり観戦してましたが、音楽の世界も楽しいんだと教えてもらいました。次は誰のライブに行こうかなあ♪